

「ごあいさつ」

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員各位の協会活動に対するご支援、ご協力に感謝申し上げます。

今回号以降、会長・副会長が交代で御挨拶をお届けすることとなりました。

さて、前号の「鈴木会長の挨拶」でも触れられておりますが、耐震評価事業に替わる新規事業の開拓が急がれているところです。

しかし、特効薬はなかなか見当たらないのが実情です。会員の平均年齢も年々上がって来て、事業の継続が難しくなり、後継者の育成も思うように出来ない昨今です。まず、会員の増強の為に施策を実施すべきと考えます。協会による会員への業務紹介と情報提供及び支部活動の更なる拡充について明確な方針を早急に打ち出す必要があります。

国内の住宅・建築ストックが既に量的には充足しており、空き家が820万戸（空き家率13.5%）にも達していると言われております。又、国の住宅政策でもスクラップアンドビルドから「ストックマネジメント」への転換が推奨されています。

会員事務所の顧客及び建物DATA・履歴に関する情報バンクを設置し、若い事務所経営者への新規顧客の紹介等に活用したいものです。この事により、事業の継続と新規会員の参加を容易にすると共に、ストック建築物のリフォーム等によるコンバージョンでの再生も可能となります。

鈴木会長が以前から計画しておられ新しく設置されました「サポート委員会」、登録制として既に存在する「コンペ君」（実際の活動は停滞しているが・・・）等の活用を図り、県民及び会員へのアピールをもっと継続的に行うことが肝要かと思われま

す。最近の明るいニュースの一つに「あかつき」の金星軌道への再投入成功の話題があります。一度の失敗にもめげずに検討を重ね、成功に導いた関係技術者の努力に敬意を払うと共に、分野は異なりますが技術者である我々も、既成概念にとらわれずに常に新しい発想と失敗を恐れずにチャレンジする精神を忘れずにいたいものです。

少ない財源の中でやりくりしに苦勞している昨今ですが、当協会の更なる発展の為に会員各位のご協力をお願いし、御挨拶とさせていただきます。

最後になりましたが、昨年（2015年）秋の叙勲・褒章で当協会元副会長小澤芳太郎様が建築設計監理業振興功労者として「旭日双光章」を受賞されました。協会におけるご活躍に感謝すると共に心からお祝い申し上げます。小澤様におかれましては、今後共協会活動への御協力、御指導の程お願い申し上げます。

平成 28 年 1 月

公益社団法人 千葉県建築士事務所協会
副会長 穴倉義昭

